

ひろば大代

NO.304

大代公民館

H16.11.23

高山の自然と保護について思う事

連合自治会長 竹島 修

今年、台風の当たり年らしく、九月に入り十八号、十月には二十三号と立て続けに接近し、風雨による農作物への被害をもたらしました。被害に遭われた方々、お見舞い申し上げます。

高山も強風により、いたる所で木がなぎ倒され登山道も惨たんたるものでした。恒例の草刈登山では、秋晴れの中、登山者の「ご苦労さんです。」と言う声を聞きながら、その手入れをしながら登りました。

残念な事に、十一月三日の登山は、天候に恵まれず、参加者も少ない中、天候の回復に期待しながらスタートしましたが、回復するどころか激しくなる雨の為、山田側の頂上まで降り下山しました。

毎年登山道の草刈をし、多くの人に高山に登ってもらおう。自然保護とは、相反する様に思われますが、より多くの人に「高山の雄大さ、自然の素晴らしさ」を知ってもらおう事によって、自然が生きてくるのではないのでしょうか。惜しむらくは、一部の心無い人が居ると言う事、そしてまだ「高山の素晴らしさ」を知らない人が大勢居る事です。

地元に住む私達も、機会があるごと

に高山に登り自然の素晴らしさを再発見し、心新たに活動していかなければいけないのではないのでしょうか。



雨の高山登山

大田市 石田正實

先日は高山登山に参加させて頂きありがとうございました。

また写真も送って頂き有難うございました。

当日はあいにくの雨で、視界も悪く遠景を楽しむことは出来ず残念でしたが、この大会に備えて地元関係者の方が、登山道を良く手入れされていたので雨にもかかわらず歩きやすかったです。

また、機会がありましたら、参加させて頂きたいと思えます。取り急ぎお礼を申し上げます。

登山の日の思い出

下市 森 守

登山道の草刈の日は良い天気でした



ので、登山の日はきつと良い天気になってくれると思っておりましたのに、思いは届かず雨の登山となりました。

植物の先生の説明を聞いたりして木フダを付けながら楽しい話を聞きながら、楽しく登りましたのに山田側山頂にて悪天候と言う事で下山することになり、チョッピリ残念でした。

今回も最年長は藤井先生。いつも登山に参加され、私達の行く所に先生の声が聞こえないと淋しさを感じます。いつまでも元気でいて下さいね。

又これからの登山も木の名が分かり、楽しい登山が出来ると思います。春には美しい花を見せ、秋には実を付けて四季の美しい高山をこよなく愛して行きたい！冬仕度の始まった山道の思い出。



我慢・忍耐力とは生きること

関西高山会副会長 中本 弘

私の孫は今、中学校3年生の女の子で来年高考入試である。私は、常に50年前の大代中学校時代と比較する。

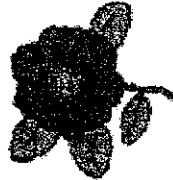
「貧しい時代に育った私にとっては何も「生きる」とは我慢することであつた。一日中空腹と戦い、勉強したいと思つても教科書は上級生からの借り物、ノートもないし参考書もない時代であつた。しかし耐えた。程度の差はあれ、時代の貧しさが、私ら子供達を強くした。私の孫も含めてそんな苦労はない、親も両手を広げて子供の苦労から守ろうとしている。

また苦労、我慢がないために、世の中には「自分の思い通りにいかないこともある」ということや、胸の中に渦巻き荒れ狂う感情を押し殺すこともなく、簡単に「きれる・切れた」となる。少ない努力で大きな結果を得ようとしても無理である。

テレビやゲームも我慢させ、勉強に取り組み勇気を持たせること。今こそ

我慢すること、努力することを教える時期にきているのではないかと思う。

ある新聞に「今子供の躰で最も大切なのは、忍耐力を養うことである」と記されていた。さて、我慢は子供だけのことを言っているのではない。今、私自身、糖尿病に挑戦している。長年警察生活をしている間に、自分の身体の管理を忘れてしまつて



いた。退職してから約6年になる。90キログラムあつた体重を75キログラムに減量した。糖尿病を駆逐するため目標を立てて日々の体調をどうすべきか考えた。

その中の一つに「早寝・早起き」であつた。昔から、「早寝・早起き体の薬」や「早寝・早起き病知らず」である。なにも難しいことではないと思う。私は、毎朝6時30分からテレビ体操を欠かさず実施している。さて人間はホルモンの分泌など昼間行動して夜は眠るようプログラムされている。

これを基本にして、人生における生きがいや本当の豊かさとは何かを自ら問いかけることではないだろうか。

サンバイさんと

サクラとハエッコの話

(独) 農業工学研究所

主任研究官 山下 裕作

3. 農業・農村の多面的機能と

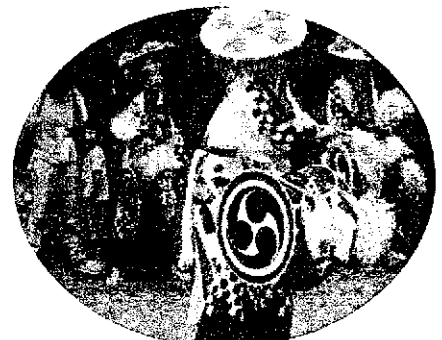
地域資源について

大代地区にこのような貴重な伝承が伝えられていることは決して偶然ではありません。そしてまた、特別な理由によるものでもありません。この地に根付き、農地を耕し、種を播き、苗を植え付け、田草や山草やシバを取り、刈り取りをし、ハセにかけ、コナし、日々の家事に追われながら子を産み育て、その子供達に様々なことを手ずから教え、子供達自身も家族が働く田や野山や川で遊び、少し長ずれば家の仕事を手伝い、田植え囃子を歌い踊り、またその子や



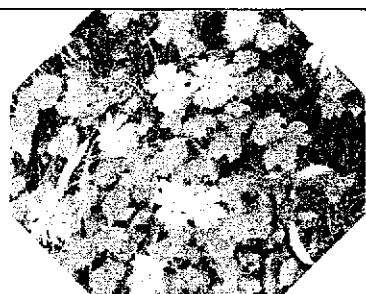
孫が同じように暮らしていく、そうした日々の生活により代々伝えられてきたものです。なんら特別なことのない普通のことの永い永い積み重ねが、こうした日本文化の根幹にも関わる伝承文化を現在に伝え残したのです。このことこそが「農業・農村の多面的機能」(文化伝承機能)と言われるものであり、近現代の都市生活や第二次第三次産業にはあり得ない、農村や農業がこれまで意識もせず無償で提供してきた機能であるわけです。

今年度をもって中山間地域直接支払制度は一つの区切りをむかえます。その存続につきこれから農水省と財務省の間にてシンドイ議論が行われることになると思います。しかし、この制度は農水省が主張するとおり、今後も確実に維持していかなければならないものです。制度を利用して中山間地域農業集落の方々にも、頂き物とか賜り物とかいう意識があつたり、荒廃地管理の対価と認識されていることが多いようですが、これは間違いです。そもそも農業農村がこれまで無償で提供してきた様々な便益(多面的機能)に



対するあたりまえの支払いであつて、頂き物とか草刈りの労働対価では無く、胸を張って存続を主張するべきものであります。そのため現行制度でも、一般に

は荒廃農地の管理ばかりに目が向けられ、またそればかりが実施されていますが、本来多様な活動に支払いできるフレキシブルな運用が可能になつていくはずですが、そのフレキシビリティがなかなか活かされていないのは、様々な問題があるのだとは思いますが、残念ながら問題は農村集落の側にもあるように思えてなりません。このような分野に奉職して以来、中国中山間地域地域を中心にあちこちで調査させて頂いておりますが、地域に入ると、先ず必ずと言っていいほど聞かされる言葉があります。「この集落は過疎で高齢化していてもう元氣なんて無いよ」「ここはね、限界集落だから」



ら、もう潰れるのを待ただけだ」「農政が悪いからどうにもならない」等々。私はこのようなことを住民の皆さんからお伺いするたびに、「はて？」と不思議な気分になってしまふのです。就職したての真面目だったころは、地域に入る際、統計からその地域の人口や年齢構成、そして少し頑張つて、ここ10年の人口動態、平均耕地面積等々調べてからお邪魔していました。しかし、そんなことでは地域のことは何も判らない。

実際に住民の方々にお会いしてその方の生活体験を細かく聞き取っていかなければ、地域を知ることには出来ない。そのため統計とか事前に見るのはやめにしました。先入観が入ると言うより、意味がないからです。

現在、統計やどこにでもある一般的な事象を資料や問題意識とした中山間地域研究やマスコミ報道が氾濫しています。そのような研究や報道は「中山間地域は現在深刻な状況にあり、何と

か解決の糸口を見つけなければならぬ」ということを問題意識とし、つまらない資料を並べ立て、結局「中山間地域はさらに深刻な局面を迎える。早急な手だてが必要である。」ということとを結論とします。

それだけでは何の物差しにもならないことを資料にして地域を論じるため、何の結論も導き出すことなく、また何らかの好奇心を満足させることも出来ない（要するにつまらない）のです。こうした研究や報道はただの出来の悪い「評論」です。先に挙げた集落の方々から最初に聞かされる話というのは、まさにこうした出来の悪い「評論」と同じことばかりなのです。

過疎化問題が盛んに喧伝されるようになってから、もう30年近く経つのではないでしようか。そのころ無責任



な評論を繰り返していた研究者や報道関係者の話を聞いてみたいものです。30年たつても多くの集落が生きてるではないですか。そしてこの30年間、

過疎化論調はほとんど変化していません。声が大きくなっただけです。その大きい声でなされる「評論」に、地域の住民自身までもが毒されてしまった。これら職業的「評論」家たちが残した成果とは、地域住民をも評論家に仕立ててしまったことにすぎないのです。

私自身は中山間地域問題というものに、じつは深い関心はありません。民俗学徒として地域の伝承文化を調べることに、そしてそれらのなかに意味を見いだすこと、そういう純粹な知的好奇心のみで研究を進めています。

ちなみに今現在は、前半部で述べた、サンバイやサクラ、そしてハエンゴ等々の田植えに関する習俗と、それをめぐる動植物を調べることに無上の喜びを感じています。そんな人間ですから、「評論」的なことに無意味感をこっとさらに感じてしまうのかもしれない。しかし、私がやっているような好事家的調査、じつは大変効果があるようなのです。

どの農村に行っても「過疎高齢化」とか「限界集落」とか「悪農政」とか、評論的なことから始まるのですが、そ

の後私自身が知りたいこと、すなわち地域に固有な伝承を知るために、住民の皆様が実際に地域で暮らしてきたその体験を細かく聞いていきます。

具体的には、どのように耕起したのか、苗代は、田植えは、肥料は、草取りは、収穫は、ハセの形は、脱穀は選別はモミスリは、はたまたどんな遊びをしたのか、川のどこで泳いで、どんな生き物をどんな道具で捕まえたのか等々。時間はかかりますが、最初「評論的」だった住民の方々は、徐々に目を輝かせながら自らの体験を話して下さります。そしてその体験の延長として地域の未来を考え



るようになります。それらはささやかではありますがありますが前向きな明るい未来像です。こうした作業は、その方が現在まで生きてきた人生を聞き取ることであります。いままで多くの方々に様々な話をお伺いしました。当然のことながら人生は、その人固有の財産であり、長い時間をかけて培

つてこられたものです。全ての人生は固有であり、価値にあふれており、そして実には有用なものです。地域とはそうした固有の人生が積み重なり、そして総合化された存在であるのです。そのため住民の方々が都会など外から持つてこられた価値観で、地域の未来を考へるといふことは、それだけでは全く意味のないことです。

地域の未来は住民の人生の延長線上にあるのであって、住民一人一人の暮らし体験の中から見いだしていかねば、見つかるべくもないのです。

○祝 県知事表彰受賞!

大代高山会

去る十一月十五日(月)松江に於いて、永年の自然保護活動に積極的に取り組んでいる事が認められ、県知事表彰を受けました。永年高山会事業に携わってこられました皆様方の御労苦の賜物と感謝致しております。

今後とも更なる町民の皆様との御協力をお願い申し上げます。

表彰状

大代高山会 殿

貴会は多年地域の環境美化と自然保護の實踐に努め地域の環境保全に尽力された功績は顕著でありますよってこれを表彰します

平成十六年十一月十五日

鳥根県知事 澄田信美

俳句

あすなろ句会

大田市 原田万里

それぞれに表情豊か捨て案山子

梵鐘の余韻流るる報恩講

下市 渡 あやこ

猪親子ゆったり人を恐れざる

幾星霜過ぎし石垣落ち葉降る

柿田 横手いちえ

秋雨やミシンの調子乱れがち

旅に出て落葉はさむを常とせり

八反田 森 信子

落葉焚き祖母と話せし幼き日
背を丸め腕くみし人冬めける

椿 花田時子

落葉降る道を急ぎて母のもと

出来秋や小学生の貯金箱

下市 今田文字

小春日や野菜市場の客笑顔

柿落葉紅濃き一葉ひらひけり

川上 岩田律枝

秋晴や母の好みし茶を求む

立ちつくす言葉にならぬ猪の害

本郷 和田喜和子

好天気稲架片付けて秋惜しむ

病院に時間待ちする秋深し

椿 柿丸寿枝

躓きし石蹴り返す落葉道

時雨るるや紅茶に落すブランドー

○パソコン教室のお知らせ

年賀状の作成

公民館では初級者の方を対象にI
T講習会を次の日程で開催致します。



参加費は無料です。 先着10名

日時 12月7日(火)

昼 午後13時30分～午後16時30分

場所 大代小学校屋体

ミーティングルーム

申込締切り 12月3日(金)

公民館までお早めに

12月行事予定

▼ 5日(日) 福祉弁当

▼ 7日(火) パソコン教室

▼ 14日(火) クリスマス会

午後7時から公民館にて

プレゼント一つ持参して下さい。

※どなたでも参加できます。

▼ 21日(火) さくらんぼ教室

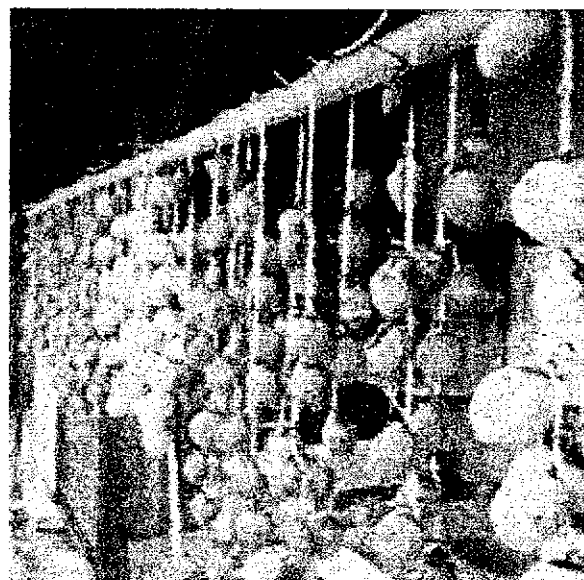
▼ 23日(木) 連合自治会

▼ 29～31日まで

大代消防団年末警戒



柿のれん



編集後記

先月から十月十七日、草刈登山・十一月三日、高山登山・十一月十四日、第二十回東京石見高山会総会出席・十一月二十一日、大代町文化祭と多彩な行事も滞りなく無事終了致しました。それぞれの行事にかかわって御協力頂きました皆様方本当に有難うございました。

詳しくは次号「ひろば大代」に掲載致しますのでお楽しみに。